

地球の病状を診断・治療する国際協力：EANET

1872年に酸性雨(Acid Rain)という用語が最初に使用され、降水の酸性化が認識されるようになった。以来、酸性雨問題は、イギリス、ヨーロッパ、北米、アジア、そして南米へと地球規模で進んでいる。とくに近年、経済成長の著しい東アジアの大気汚染は深刻である。さらに、人類・生態系全体に影響を与える地球温暖化やオゾン層破壊も止まらない。地球は病気に罹っている。

酸性雨は、汚染物質が大気圏内を数千キロメートル以上も移動してもたらされるため、国境を越えた対策が必要となる。酸性雨問題の先輩ヨーロッパでは、いち早く酸性雨モニタリングネットワークを構築し、みんなが共通の認識を持って酸性雨原因物質の削減対策をとったおかげで、近年次第に改善されている。

東アジアでは、10カ国が集まり東アジア酸性雨モニタリングネットワーク(EANET)を1998年4月に設立した。現在、東アジア各国38サイトで、湿性沈着(雨、雪など)や乾性沈着(ガス、浮遊粒子など)などをモニタリングし、酸性雨が陸生態系・陸水生態系におよぼす影響も調査している。

私は、ホリバからEANETネットワークセンターおよび日本の国内センター両方の機能を果たしている酸性雨研究センター(ADORC)に出向して以来、中国はじめ加盟各国のサイトへ調査に出かけ、事態の大きさを肌で感じてきた。例えば、重慶市内では、工場からの排ガスに加え、近年は車の排ガスの影響も重なっている。

計測機器という道具を用いて、酸性沈着という「病状」を正確に診断し、将来実施可能な削減策の立案、つまり治療に寄与することがEANETの重要な仕事である。

EANETは、世界の三大酸性雨モニタリングネットワークの中では最も新しく、充実も速い。しかし、EANET加盟各国の経済発展は必ずしも均一ではなく、確実に機能させるためには、ヨーロッパ以上の努力をしなければならない。高精度な測定機器の設置に合わせ、優れた測定技術の移転、精度保証・精度管理体制の強化、さらには人材のトレーニングなど課題は少なくないが、やり遂げなければならない。

私たちの地道な活動が、病める地球の回復に役に立ち、結果的に各国の利益につながるものと確信している。



中国 厦門(あもい)市
EANET モニタリングサイトを視察中の著者

李 虎 (Dr. LI HU)

1984年に中国北京市に首都経済貿易大学衛生工学科卒業後、北京市紡織工業総公司北京タオル工場、北京市朝陽区環境保全局に勤務した後、来日。1997年に大阪大学大学院で環境工学の学位を取得し、同年ホリバに入社。1998年4月からは(財)日本環境衛生センター 酸性雨研究センター(ADORC)に出向中。